生徒指導だより「こころ」

平成２８年７月１２日（火）
NO. 7　文責　堀　晴昭

指導法や考え方を学ぶ

　私は学生時代からずっとサッカーをやってきました。昨年まで現役でプレーもしていましたが、年には勝てず、ついに引退しました。私の憧れの人であり、尊敬している人が大津高校の平岡監督で、４０年前から知っています。その監督の講演を昨年聴きました。みなさんにも紹介したくて記事にしました。

①平岡監督の実績《プロフィール》
○１９６５年　熊本県宇城市松橋町生まれ
○松橋中学校から帝京高校（東京都）に進み、１９８２年全国総体で優勝
○１９８３年には主将として全国高校サッカー選手権を制覇
○１９８４年に筑波大学へ進み、４年生のとき主将として総理大臣杯サッカー大会で優勝、関東大学リーグでも優勝を果たす
○日本高校選抜、全日本学生選抜等の主将も務めた
○大学卒業後、教員の道へ進み、１９８８年に熊本商業高校に赴任
○１９９３年より大津高校サッカー部監督に就任
○大津高校では、数々のタイトルを獲得しながら、ドイツ杯出場の土肥洋一や巻誠一郎をはじめ４３名のＪリーガー（プロ）を輩出している
○２０１１年には日本高校選抜の監督を務め、ドイツ大会に出場
○２０１４年山梨県で開催された全国高校総体では準優勝を果たし、熊日スポーツ指導者賞を受賞

②実践（どんな考え方で、どんな指導されているのか？）
★スカウトはしない。（強い学校の多くは、上手な選手を集めている）
★朝の５：４０には学校に着いている。そのときには生徒はもう練習をしている。朝が早いからと言って授業中に寝る者はいない。
★できなかったことができるようになることがトレーニング。一つの技を習得するのに２万回やっている。
★自主性や課題発見能力がとても大切である。やらされている選手、自分の課題が分からない選手は伸びない。でも一番大切にしているのは「あきらめない能力」である。
★生活の中では「凡事徹底」を大切にしている。すべてのことをあたりまえにする。挨拶も掃除も勉強も。よく「大津高校は、ルールが厳しい」と言われるがそうではない。ルールが厳しいわけではなく、ルールを守ることに厳しいだけである。
★（自分）－（サッカー）＝（　０　）は最悪である。
★毎日放課後は１００分しか練習しない。どうしてそれだけしか練習しないのか聞かれるが、試合は９０分であり、その時間集中できないとダメ。生徒はどのメニューも全力でがんばっている。そもそも、終わりを示さないと人はがんばれない。いつ終わるか分からない練習ではがんばれないのである。この１００分の練習の中で１０㎞程度走る。試合では１０～１２㎞走らなければならないから。
★「目指すゴールがない者に進む道はない。」
★スポーツ（サッカー）を通して技だけではなく、「心」を磨く。なぜ「心」の成長がいるのか。それは、（心）×（技）×（体）《かけ算》だから。
★「心」を育てるためにはどうすればよいのか？それは、まず「感じる心」がスタートである。「これはしても良いこと、これはしては悪いこと」を感じること。そして何より、「目と耳」を鍛えることである。よく観ること、よく聴くことが大切である。ときどき抜き打ちテストをする。
★勝つことと負けることは紙一重である。勝利の女神を引き寄せるために、そして勝負にこだわるために生活面をきちんとする。総体の決勝前は、大津町をサッカー部員全員で清掃して回った。
★強いチームになるためにはお手本が必要である。大津がずっと強いのは、これまで素晴らしい先輩たちがいたからであり、すばらしいライバルがいたからである。
★教えを素直に「はい」、そしてすぐそれを行動できる者は伸びる。また、家族に感謝する者、親を大事にする者は必ず成長するし、成功する。
★苦しいときは前進しているときであり、苦しくなければ前に進んでいないのである。
★全てのメニューを全力でやるように指導している。１００％ファイトしない者はピッチから去ったほうがよい。
★失敗はチャレンジしたことの証。ポジティブな失敗は成功への入り口である。
★泣きごとを吐くな、弱気になるな、言い訳をするな、サッカーだけの人間になるな、上手くやるより全力でやれ。
★人間は追い込まれると本当の姿を出す。きついときどうするか。（試合途中、試合の次の日、宿題など）
※サッカーの世界の話ですが、他のスポーツや学校生活にも関係することがたくさんあります。勉強や部活動での成績や伸びで悩んでいる人は、できることから始めてみましょう。自分が変わればすべてが変わっていくはずです。

「心のきずなを深める標語」

　６月は「いじめをなくす」取組の一つとして全学年で標語づくりをしました。３年生だけではありますが、作品を数点紹介します。

いつの間にか　クラスにある　いじめの構図（永田蓮）
「関係ない」　その他人事が　寂しいなあ（山下晴基）
ごめんねで　許せるほど　心の傷は浅くない（河津瑠香）
無意識に　言っている言葉　危険かも（森千夏）

　この他にもいじめに関する授業をしたり、いじめアンケートをとったり、様々な取組をしていきました。いじめアンケートでは、「今の学年になっていじめられたことがある」という質問に、「ある」と答えた生徒は一人もいなくてほっとしていたのですが、実は先日「いじめ」を一件発見しました。私たち教職員も毎日の日記や生徒の表情、定期的なアンケートでいじめの発見に努めていたつもりでしたが、分かっていなかったということです。申し訳ない気持ちでいっぱいでした。以後こういうことがないようにします。保護者の皆様もお子様の様子で気になることがあればすぐご相談ください。できることを精一杯やっていきます。